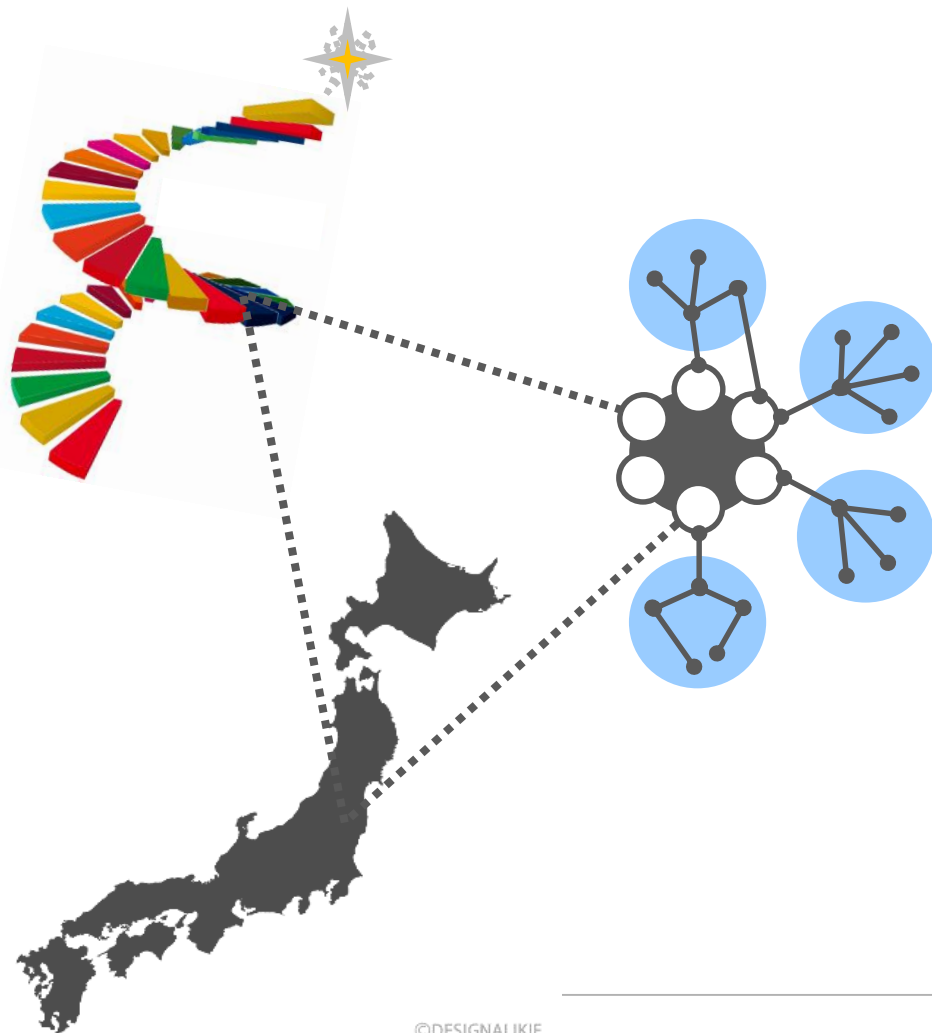




第146回 日本ユネスコ国内委員会総会



[建議1]

SDGs達成に向けた ESDの推進における 主導的役割の維持 の実現に向けて

日時:2020年2月21日

場所:ホテル・ルポール麹町

佐藤真久

東京都市大学大学院

環境情報学研究科 教授
UNESCO GAP-PN1(政策)

共同議長

m-sato@tcu.ac.jp/

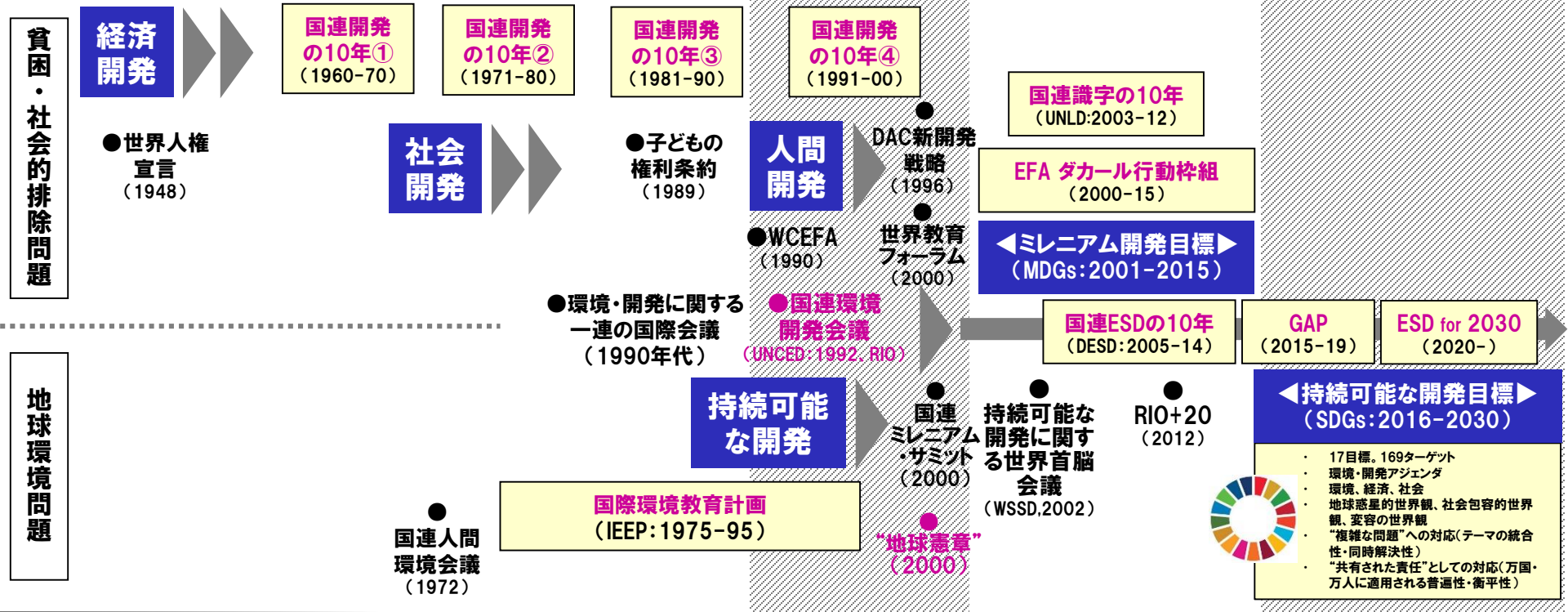
masahisasato@hotmail.com



持続可能な社会を担う人づくり

世界的・歴史的俯瞰と自己紹介(佐藤真久)

1940s 1950s 1960s 1970s 1980s 1990s 2000s 2010s 2020s 2030s



1940s 1950s 1960s 1970s 1980s 1990s 2000s 2010s 2020s 2030s

自身の世界観と進路

“生物” “教育・状況的学習” “アジア太平洋地域” “SDGs”
 “環境” “持続可能な開発” “ESD/GCED” “社会的学習・探究”
 “ソーシャル・ビジネス” “協働とガバナンス”

筑波大学(環境科学) IGES(アジア環境教育政策) GAP-PN1(政策) 共同議長
 英国高校留学 米国修士研究(SF) 起業(ETIC.) ユネスコ関連(ACCU, アジアESD/EFA)
 英国留学(Ph.D) ESD・JAPANレポート座長 国連大学
 筑波大学(理学) サルフォード大 東京都市大、北京師範大 高等研究所



国内の教育活動と国際協力の 成果が往還したESDの取組(例)

③ユネスコ理念を活かした 市民運動／社会教育／ 協働取組の充実

(例:民間ユネスコ活動、公民館活動、協働取組)

④研修・能力開発プログラム／ 国際協力プロジェクト

(例:JFITの協力、海外協力隊の技術協力・経験共有・日本社会への還元・貢献、現職教員特別参加制度、教師海外研修、国際教員交流・教育協力、国内研修・能力開発プログラム)

①学校(総合学習)における 教科統合的アプローチ

②ユネスコ理念を活かした 学校教育実践／ 支援ネットワークの構築

(例:ユネスコスクール、全国大会、大学間支援ネットワーク)

⑤ESD実践における 協働プラットフォーム

(例:ESD活動支援センター、ESD拠点機能、ESD全国フォーラム)

⑥報奨制度・助成メカニズム

(例:UNESCO-JAPAN ESD賞、SEAMEO-JAPAN ESD賞、ESD岡山アワード、ユネスコ・パートナーシップ事業、地球環境基金等)

⑦ESD国内実施計画における“環境”を基盤にした 公正で社会包摂的な取組の展開





SDGs達成に向けた、ESDの推進における 主導的役割の維持の実現に向けて

[1]国連ESDの10年 (DESD)の経験を活かす※1

- 個人変容と社会変容の学びの連関
- 持続可能な社会の構成概念
(多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性)
- 異なる学習アプローチの活用
(知識伝達、体験、態度・行動、自己内省)
- 変容を促す実践アプローチ
(実践・学習共同体、協同的探究、
コミュニケーション的行為)
- 社会的・感情的知性(SEI)
(マインドフルネス、共感、思いやり、批判的探究)
- 持続可能性キー・コンピテンシー
(システム思考、予測、規範、戦略、協働、
批判的思考、自己認識、統合的問題解決)
- ESDレンズ
(持続可能性を高める視座)
(統合的、文脈的、批判的、変容的レンズ)

HOW/WHAT
《視座・視点》
《アプローチ》
《プロセス》



[2]SDGsの本質に 対応する※2

- “複雑な問題”に向き合う
(環境・経済・社会・文化の統合)
(貧困・社会的排除問題と環境問題の同時解決)
(テーマの統合性、同時解決性)
(複雑な問題を取り扱う探究)
- 共有された責任・普遍性・衡平性
- 地球惑星的世界観
- 社会包容的世界観
- 変容の世界観
- マルチステークホルダー・
パートナーシップ
- VUCA社会への対応
(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)
- 共通言語としてのSDGs
- 連携・協働／教育・学習ツール
としてのSDGs



SDGs達成に向けた、ESDの推進における 主導的役割の維持の実現に向けて

[3]日本の社会課題に 向き合い価値を共創する

- 課題先進国としての日本
- SDGsのローカリゼーションによる
地方創生への貢献※3
- グローカルな文脈化※4
(気候変動、持続可能な生産・消費、
災害リスク削減、生物多様性保全など)
- VUCA社会への対応
(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)
- グローカル探究の重視※4
- 幼児教育／基礎教育／高等教育
／職業訓練／社会教育含む※5
- AI等の技術革新を活かした
課題探究・価値共創

WHAT/WHERE
《場の力》
《日本の課題》



©DESIGNALIKIE

[4]ユネスコの特徴を 活かす

- エコパーク／ジオパーク／世界遺
産(自然・文化・複合)／無形文化
遺産(ICH)／創造都市ネットワー
ク等を教育・学習に活かす
- 平和教育／国際理解教育／人権
教育／消費者教育／環境教育／
地球市民教育等の拡充



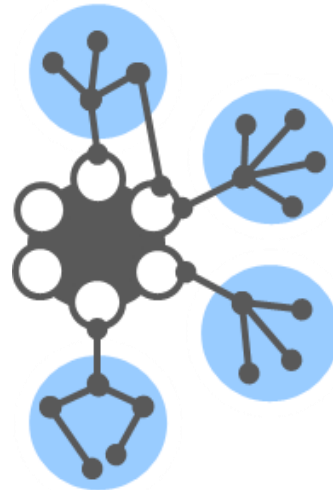
SDGs達成に向けた、ESDの推進における 主導的役割の維持の実現に向けて

[5] 社会生態系を 構築する

WHO/HOW
《連携・協働》
《制度・しくみ》

[6] 制度・仕組みを 構築する

- 多義的なマルチステークホルダー・
パートナーシップ推進※6
(手段・目的・権利を有したパートナーシップ)
(学校-企業連携など)
- 協働ガバナンスの構築
- 多様な主体の協働を促し、統合的
問題解決・価値共創を図る能力開発
プログラムの開発と実施※7
- ESD活動支援センターやコーディネート
組織の拡充、中間支援機能強化※7
(変革促進、プロセス支援、資源連結、問題解決策提示)
- ユースやシニア、マイノリティが生き、
活かされるしくみづくり



- ホールスクール・アプローチの拡充
(カリキュラムの編成・実施、施設運営、学校運営、
地域連携、カリマネと学校運営の連関)
- 学校教育・社会教育における
経験者の戦略的配置
- 国内教育活動と国際協力の
成果の往還
(ユネスコスクール、現職教員特別参加制度、教師
海外研修、国際教員交流・教育協力プロジェクト、
国内研修・能力開発プログラムの拡充など)
- 実践と研究の連関強化
(社会変容↔個人変容、協働↔社会的学習)
- 省庁間連携／省内部課署連携
- ナレッジマネジメントと
共有プラットフォームの構築
- アジア太平洋地域のESD施策の
企画立案段階からの整合性向上



SDGs達成に向けた、ESDの推進における 主導的役割の維持の実現に向けて

“..ESDは、SDGs達成を実現するもの(enabler)である..”(UNESCO)

**[1]国連ESDの10年
(DESD)の経験を活かす**

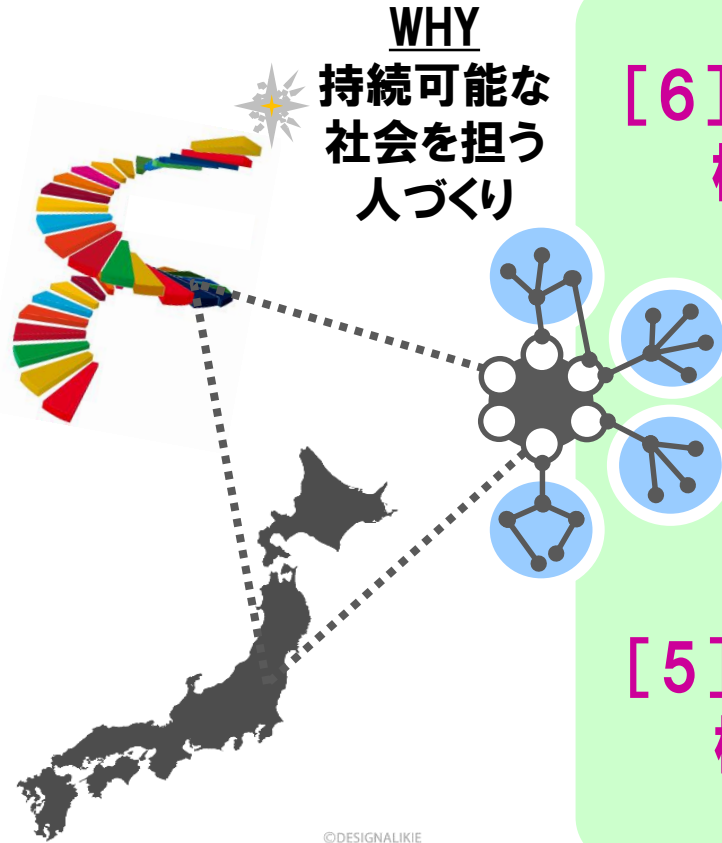
HOW/WHAT
《視座・視点》
《アプローチ》
《プロセス》

**[2]SDGsの
本質に対応する**

**[3]日本の社会課題に
向き合い価値を共創する**

WHAT/WHERE
《場の力》
《日本の課題》

**[4]ユネスコの
特徴を活かす**



WHY
持続可能な
社会を担う
人づくり

**[6]制度・仕組みを
構築する**

WHO/HOW
《連携・協働》
《制度・しくみ》

**[5]社会生態系を
構築する**



※4: SDGs 探究BOOK (佐藤, 2019)



※2: SDGsの本質 (佐藤, 2019)

朝日新聞コラム
SDGsの実践に向けて①～SDGsの本質を捉える

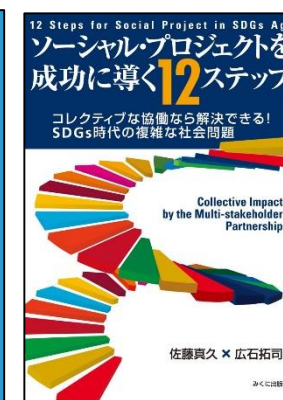
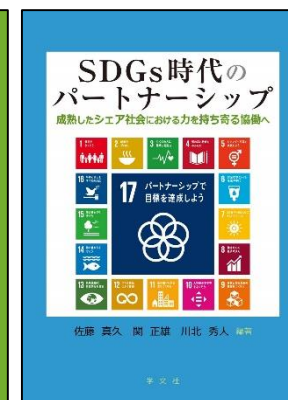
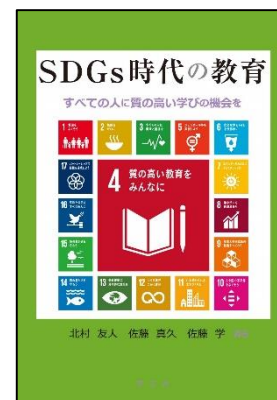
2030

SDGsで変える



<https://miraimedia.asahi.com/satomasahisa01/>

※5: SDGs時代の教育 (北村・佐藤・佐藤編) ※6: SDGs時代のパートナーシップ (佐藤・関・川北編) ※7: ソーシャル・プロジェクト (佐藤・広石 共著)



◆参考文献

- ※1: 佐藤真久(2016)「国連ESDの10年(DES)の振り返りとポスト2015におけるESDの位置づけ・今後の展望－文献研究と国際環境教育計画(IEEP)との比較、ポスト2015に向けた教育論議に基づいて－」、『環境教育』, 日本環境教育学会, 61(25-3):86-99.
- ※1: 佐藤真久・Didham Robert(2016)「環境管理と持続可能性な開発のための協働ガバナンス・プロセスへの「社会的学習(第三学派)」の適用に向けた理論的考察」、『共生科学』, 7:1-19.
- ※1: UNESCO(2017) *Education for Sustainable Development Goals, Learning Objectives*, UNESCO, Paris.

※3: 日本の227の社会プロジェクトから抽出された日本の社会課題(31課題) https://2020.etic.or.jp/actions/chu_map/



例) 老朽化する社会インフラ、災害大国日本、先進国なのに高い相対的貧困率、日本でも起きている食糧問題、じわじわ広がる教育格差、希薄化・孤独化するコミュニティ・・・